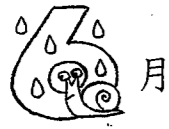


2023年(R5年)



No. 373

WELCOME

(題字: 三井 裕森)



社会福祉法人 ひとほ福祉会  
〒739-1203  
広島県安芸高田市向原町長田1857番地  
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムア-ジアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

日本には四季があり、春・夏・秋・冬を毎年当たり前のよう感じています。「暑いです  
ね」「寒いです」と会話のきっかけにもなる四季。今年には新型コロナウイルスとの付き  
合い方も変わり、四季を楽しむ機会が戻ってくることを期待しています。

そんな思いで4月初旬、数名のきららせスタッフと暖かくなったら何をしようかという  
話になりました。一人が「バーベキューがしたい」と言うと、その言葉にほとんどの人が賛同。  
暑すぎず、寒すぎず、ちょうど良い季節にバーベキューは女子まれるようで、今年には数年前ぶりに  
各事業所でバーベキューが行われています。

四季の中で一番好きな季節は?という質問に「秋」と答えた泉山さん。その思いは「農園  
の人とボウリングに行けるから。それが秋。」というところにありました。それができなかった期間  
どんな思いで過ごされていたのでしょうか。先日、久々に農園の人とボウリングに行ったことを熱く  
何度も何度も嬉しそうに教えていただきました。ちなみには秋ではありませんでしたが、泉山さん  
だけでなく、今年には「久しぶりに〇〇が楽しめた!」という言葉をあちこちで聞くことが  
できそうです。

ここ数年ひとほに入ってきたきららせスタッフの中には、ひとほまつり、ふれあい交流会や地域の  
まつり等、毎年恒例だったイベントを知らない人もあり、名前は何度も聞いたけれど  
経験するイベントも時々あるかと思っています。今年には、初めての人も経験ある人も新たな気持  
ちで「ひとほのカ」を発信する機会になるでしょう。

(共同ホームひとほ・ひとほ作業所 井上美恵)

後援会費を振り込んでいただいた方へ

ゆうちょ銀行の口座から振り込みをしていただいた方に手数料が発生し、ご迷惑をおかけし  
ました。振り込み用紙を使用すれば、かかりません。大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありま  
せんでした。(担当 岡川)

### ひとほの石けん

向原町にある高橋電機の奥様より「広島にいる同級生が、ひとほの石けんは靴の汚れも  
取れるし、食器を洗う時にも使えて、落ちなかったものまできれいになってすごくいい。向原に  
来るたびにやすらぎ(向原農村交流館)で買うから、たくさん納品してほしいと言われてたよ!」と  
電話がありました。

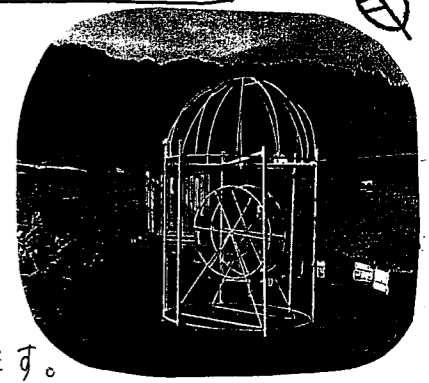
そこで、石けんの作り手に話を聞きました。

「油(食用油の廃油)の量間違えた!保管ミスでドロドロに溶けた...そんなこともあるけど、  
ひとほ会(親の会)の数名とスタッフで集まって、ワイワイ言いながら作ることが楽しいかな。気温  
や湿度によって、出来上がりが違うのもおもしろいところで、やっぱり売れるのは嬉しいね。」

ひとほのEMせけんはEM菌が入っているので、排水がきれいになり、環境にやさしく、手にも  
やさしい手作り感あふれる石けんです。襟の皮脂汚れ、作業着の油汚れにも活躍します。

### ひとほガーデン

11年前、貞近さんたちと始めたガーデンづくり。  
「完成したら皆たまげると、新聞やテレビに出るぞ」と夢を語り、  
昨年実現することができました。治療が必要となった貞近さんは  
他の施設に移されましたが、単身前生まれていつも平和を願って  
いる意思を引き継ぎ、ウクライナ風 ガーデンを新たに作っています。  
今年もブルーベリーが実ります。(ひとほ工房 丸岡 洋二)



ひびきあい (字三上潤子)

平成29年度発行 ひびきあい 改定版

久家 徹也

「きららのひびきあい」

作業所きらら旅行で小野さん、Bさんと同じ部屋で宿泊したときの話です。

夕食までの時間、何をしようかと二人に尋ねると「お土産」と声があがったため、旅館の売店へ。小野さんはカゴいっぱい、Bさんは空っぽのまま迷っているようにした。小野さんに「誰に何をあげるの?」と聞くと、「これはお母さん、これは弟…」と説明をしてくれました。

次にBさんに同じことを聞こうと思い、近寄るとカップラーメンをじっと見つめ欲しそうにしていたので、「買う?」と聞くと、「買う!」と嬉しそうにかごの中へ。その後もそれぞれお土産を選びました。

部屋に戻ると早々Bさんがラーメンの袋を開け始めました。夕食の時間が近づいていたため、私が声をかけようとしたとき、小野さんが「Bさんダメよー。」と一声。それを聞いたBさんはこれまた嬉しそうに「うん!!」と答え、二人でニコニコ。何度か繰り返していました。

二人だけで会話しているところは見たことがなく、そんな光景を見られるなんて思っていなかった私は心がほっこりしました。

旅行という特別な状況もあったのでしょうか。でも、二人がそれぞれのことをわかっているからこそ、安心して楽しく過ごせた旅行になったんだと思います。二人の数少ない「ひびきあい」。普段から聞けるようになるためには…と楽しく自分の関わり方について考えられた出来事でした。

二人の北海道(編集後記) - 芹尾 順子

「文尚さん 札幌に 話に来せんか」の誘いに 去年の6月 私たちは 4泊7日の旅をした。小樽の白樺の林の中「小林多喜二」のウィンドウの前で 写真を撮らう。その後私の友人の住む十勝へ。ホテルで早く目覚め うぶと組んで窓の外を見た文尚さん。数日後、長い二人の旅は突然 終わった。

### 「え!? お呼びではない…」

ホームの沖本さんがスタッフの久家さんを呼ぶ「くがさーん」が私にはどうしても「おばさーん(食堂の人を呼ぶときにはいつも誰でも「おばさーん」と呼びかけます)」に聞こえます。沖本さん「若いんだけど…」と思いながら「なあに?」と厨房のドアを開けると沖本さんはキョトン!?といった顔…あ!また間違えた。この間違いがこのところ多数。その瞬間いつも自分の聴力の衰えを感じてしまいます。いつまでひとはでみんな喜んでもらえる食事を作れるかなあ…と思わずにはいられません。  
(食事部 柿林 弘美)

### 「3年越しの詩集完成!」

私が初めてケースを持った井上憲二さんの話です。詩集は井上さんの詩が32篇入っています。手書きの詩ですが、手書きだからこそ難しい所がありました。何度も見返し間違えている部分はなにかの確認を井上さんと行い、時には漢字のミスがあったり、文字が抜けているということも。そんな中で完成した詩集、井上さんのやっとの気持ちでできた作品です。目標達成しましたね!  
(就労センターあっぷ 中村 逸香)

### 「今日は何をする?」

まん丸な目をして笑顔で近づいてくる江里奈さん。今日は何をするのかな?運動神経バツグンの江里奈さんは、何でもそのたくこなしてしまう。しかし、私相手の時は優しいテンポで動いてくれ、本当に助かっています。チャンバラが特に好きで、刀を抜くポーズは本当にきまっている。スポンジの刀で斬り合いをしたとき、思いきり攻められ江里奈さんの刀が折れてしまった。不利だと悟った彼女は私の刀も回収して片付けてしまった。引き際も分かっておりナイスです!!  
これから身本を鍛え、大好きなお母さんと元気に過ごせますように。  
(ひとは作業所 今井 志保子)

ひ

と

は

の

日

々